

学校の新しい生活様式における「考え、議論する道徳」

感染症予防下での話合いの充実

ICTの活用

- ・学習支援ソフトによる思考の可視化（ロイロノートやミライシードの活用）
- ・オンライン会議ツール（Zoomやmeet等）を活用した話合い

→レコーディング機能で話合いの様子を保存し、振り返りや評価に活用

- ・共同編集機能（Jamboard 等）を活用した話合い
- ・デジタル教材の活用
- ・拡大機能や音声機能による支援
- ・スライドや動画を活用し、教材を視覚的に理解
- ・アンケート機能を活用し、共感した点や考えたい点を表示及び集約

意思表示の工夫

- ・ハンドサインやカードの活用
- ・心情グラフ、心情メーター



具体例の紹介

●アイデア1 ロイロノートやミライシードによる話合い



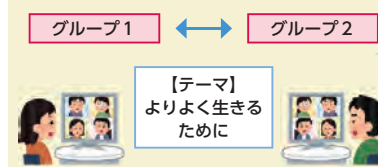
「～する」と「～しない（できない）」でカードの色を指定し、理由を書く。

～する理由

～しない理由

同じ「～する」「～しない」であっても書いてある理由に着目することで、道徳的価値について考えを深める。

●アイデア2 Zoomやmeetを活用した交流の充実

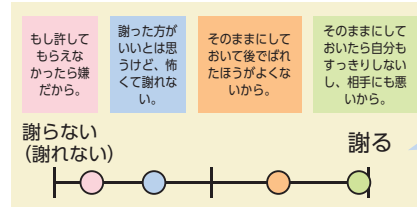


各グループで話し合ったことをオンライン会議ツールを使用して他のグループと交流する。

【発展活用例】

- ①話合いの様子を録画して全体で共有（話合いの再現）
- ②他クラスや他学年との交流

●アイデア3 Jamboardを活用した話合い



- ①あらかじめWordやペイントで心情メーターを作成する。
- ②作成したメーターを挿入する。
- ③各グループでメーターと付箋を使って考えを表す。

コロナ禍に関連した内容項目の授業の充実

A 主として自分自身に関すること

【小】希望と勇気、努力と強い意志 【中】希望と勇気、克己と強い意志

B 主として人との関わりに関すること

【小】【中】友情、信頼

C 主として集団や社会との関わりに関すること

【小】【中】公正、公平、社会正義 家族愛、家庭生活の充実
よりよい学校生活、集団生活の充実

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

【小】生命の尊さ 【中】よりよく生きる喜び



平成30年度戸田市指導の重点・主な施策
「考え、議論する道徳」への質的転換



国際的な調査からみるエビデンスに基づいた授業改善の視点

戸田市が協力したOECDが進める国際調査であるGlobal Teaching Insight（以下、GTI）の結果が公表された。調査における授業分析の視点や分析結果における戸田市の課題を紹介する。

指導の質を高めるための

GTIの特徴

教師の指導実践に関する調査で、以下に示す6領域で授業動画を分析し、領域別に授業の構成要素や指標を定量化。（対象教科は中3数学、調査は2018年度）
※GTIは調査当時、TALIS Video Study という名称であったが、現在はGTIに変更。

調査の概要や全体的な調査結果の説明については、こちら（国立教育政策研究所HP）



指導実践の6つの領域	GTIからみる指導のポイント
授業運営	○教室全体を見渡し、様々な児童生徒に発言を求め、進捗具合を把握する。
社会的・情緒的支援	○児童生徒が間違ったり悩んだりしている場面で、粘り強く取り組めるようフォローする。
対話（談話）	○「なぜ～か」や「似ているところは～」といった、理由や関連性など思考を促す発問をする。 ○考え（アイディア）や手続きがなぜそうであるか、詳細な特徴に焦点を当てて理由を示す。 ○授業中に、児童生徒主体のやり取りの機会をつくる。
教科内容の質	○考えや表現方法（図やグラフなど）を関連付ける。また、そのつながりを児童生徒に明確に示す。
生徒の認知的取組	○考えや手続きについて、なぜそうなるか理由を分析させたり、特定の基準に沿って評価させたりといった認知的な活動に取り組む機会を増やす。 ○問題等を解くために児童生徒から複数の考えを引き出す。
生徒の理解に対する評価と対応	○児童生徒の考えに対する教科内容に沿ったフィードバックを増やす。 ○発問に対する児童生徒の様々な考えを引き出し、その考えに対して理解を促す応答をする。

学習の過程を褒める機会を増やす

児童生徒が間違ったときに肯定的なコメントをする

戸田市の課題

推論の手法を複数提示して選ばせる

解答方法の手続きを二つ以上提示する

社会的・情緒的支援のスコアが低い

間違いを恐れずに自発的に授業に関わりやすい雰囲気をつくる

児童生徒の複数の考えを引き出すスコアが低い

児童生徒の思考の自由度を高める